



盛岡遊技業組合青年部会
(岩手県遊技業協同組合)
「こども食堂への
食料品配布支援」
事業



盛岡遊技業組合青年部会
部会長
高原仙一さん

選考理由

困窮世帯への支援策として始まったが、現在では子どもの居場所づくりや子育て支援、食育活動の場として社会の関心を集めている「子ども食堂」。新型コロナウイルスの拡大により「子ども食堂」が開設出来ないため困っている子ども、困窮家庭等に、フードパントリーを実施している団体を通じて食料品を支援した事業である。贈呈の様子がテレビ放映されるなどの効果もあり認知も高まり、関係者以外からも「今後も活動を継続してほしい」との声が寄せられている、地域の期待度が高い、地域貢献、青少年育成事業を評価する。

社会貢献活動審査委員会
委員
松尾守人氏



子どもたちに
温かい食事や交流の場を
提供しているこども食堂に
食品を寄贈

子どもたちを対象に社会貢献活動を
続けてきた青年部会の新たな取り組み

現在、31ホールから構成される盛岡遊技業組合傘下の青年部会では、2004年度から盛岡市内の児童養護施設の子どもたちを対象に、サンタクロースに扮した部会員が施設を訪ねてクリスマスプレゼントを届けたり、わんこそば大会やテーブルマナーを学びながらの食事会を開催したりするなどの社会貢献活動に取り組んできた。しかし、2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、同事業の継続が困難になったことから、同部会では2021年度からこども食堂への食料品の寄贈を行っている。

盛岡市のホームページによれば、現在、盛岡市内では24ヵ所のこども食堂が開設・運営されている。同部会では、地域の未来ある子どもたちに健やかに育ってほしいという願いから、子どもたちの食生活を側面から支え、保護者の負担を少しでも軽減させることを目的に、子どもたちに温かい食事や安心・安全な交流の場を提供しているこども食堂に対し、食料支援を行うことにした。

なかでも新型コロナの感染拡大により、従来のこども食堂が開催できず、ひとり親家庭などへのフードパントリー（経済的に困窮している人や世帯に食料品などを配布する活動）を実施している団体へ食料を支援することとし、2021年度にはこども食堂を運営する「インクル岩手」「フキデチョウ文庫」「なかよし食堂」の3団体に対して、合計で米170kg、レトルト食品2種170個、パスタ170個、お菓子170個を贈呈した。



食料品の贈呈式



寄贈したお米やパスタ、お菓子等

こども食堂にお米やパスタなど
総額22万円分の食料を寄贈

2022年度も同事業は継続され、盛岡市内のこども食堂「サンガキッズ子ども食堂」「特定非営利活動法人 わっこ食堂」「ことりでこども食堂」の3団体に食料品を贈呈した。贈られた食料品は、米180kg、パスタ220個、パスタの素220個、カレールー220個、お菓子220個の6品目で、総額22万円となった。

贈呈の対象となった3団体は、盛岡市役所の福祉担当者からアドバイスをもらいながら選定した。贈呈の約3か月前から計画を策定し、団体関係者などと打ち合わせを行ったうえで決定した。12月16日に盛岡遊技業組合会議室で行われた贈呈式では、高原仙一青年部会長が挨拶を述べた後、こども食堂の代表者に目録が贈呈され、3団体を代表して「サンガキッズ子ども食堂」の代表から謝辞があった。贈呈式終了後には、同部会員5名が実際に各団体を訪問して食料品を手渡したが、関係者と直接、交流することで支援の重要性を再認識した。

また、贈呈式の模様は岩手朝日テレビ、岩手めんこいテレビなどテレビ局が取材し、同日夕方のニュースで放送されたことで、視聴した多くの県民から高い評価があったほか、「今後も子どもたちのための活動を継続してほしい」という期待の声が寄せられた。支援を受けた団体の一つ「わっこ食堂」では、団体のホームページで贈呈の様子が写真入りで紹介されるなどして、こども食堂の利用者からも大きな評価を得た。